

あつぎ

農委だより

2022年
1月1日
第89号
編集・発行
厚木市農業委員会

三世代で夢を継ぐ花き栽培



飯山で花き栽培を営む佐々木花園の皆さん

新年、あけまして
おめでとうございます。

ご家族おそろいで新春をお迎えのこと
とお喜び申し上げます。

私たちの暮らしに大きな影響を与えた
新型コロナウイルス感染症は、発生から約
2年が経過します。

ワクチン接種の進展や新たな生活様式
の定着により、一旦は落ち着いたものの、
新たな変異種の発見など、予断を許さな
い状況が続いています。

引き続き、一人ひとりの高い感染対策の
意識や良識ある行動が求められます。

さて、昨年は、気候変動の影響と考え
られる猛暑や8月の長期間の降雨等、急
激な天候変化があり、農業においては、栽
培管理や病害虫対策に苦労した1年とな
りました。

私たち農業委員会は、農業委員・農地
利用最適化推進委員が一丸となり、限り
ある農地を後世に引き継ぐため、農地の
保全に向けた活動を展開しています。

遊休地の未然防止のための農地パトロー
ルや担い手への農地の利用集積・集約化の
実施、新規就農者の認定等、農地利用の
最適化に向けた活動を推進しています。

本年も農業委員会は、関係機関、関係
団体と手を携え、農業経営のより一層の
向上に資するため、一生懸命取り組んで
まいります。

本年が農業者をはじめ、市民の皆さま
にとって、希望に満ち、健康で実り多き
良い年となりますことを心よりご祈念申
し上げ、年頭のあいさついたします。



厚木市農業委員会
会長 堀池 春夫

農業を守る農薬 市内で開発中



研究所全景

農業は農作物を病害虫や雑草から守り、安定した食料の供給には欠かせない存在で、私たちの豊かで安全な食生活の支えになっています。

1950年に設立された北興化学工業株式会社は、「種子から収穫まで護るホクコ農薬」をモットーに、安全で優れた農薬を提供する農業事業と、独自の製造技術を生かした「高純度・高機能・高付加価値」の製品を提供するファインケミカル事業を展開しています。農業事業では、全国のJAを通じて集めた、生産者の声に応える農作物の殺菌剤、殺虫剤、除草剤など200種以上の製品を製造販売しています。2019年にはベトナムにも試験農場を設けるなど、アジア圏を中心に海外への事業展開も進めています。

長い道のり

新製品開発の拠点である開発研究所では、効果的な製品の製造に向けた研究が進められています。研究所に付設する試験農場では、ポットや小規模圃場での薬剤効果試験が行われ、その後、北海道や静岡県の大規模な試験農場で本格的な実証実験に移ります。

農業は作物の品種等はもちろん、生産地に合った製品であることが求められており、温室や実圃場を利用した試験や実験で評価しています。さらに、農家の方の生の声を取り入れ、新製品の開発に日夜取り組んでいます。



新農薬の開発に取り組む研究員

しかし、新しい製品開発は一朝一夕にはいかず、10年以上の年月に加え、数百億円もの費用がかかることもあるそうです。研究員は、必要とされるもの成形にする楽しさを知る一方、根気強く研究し続けなければならない難しさも知っています。

信頼される農薬

新製品開発に向け、重要視していることは「安全性」です。人に対して悪影響がないことはもちろん、自然環境への負荷を最小限に抑えることが求められます。また、少子高齢化が著しく進み、農業従事者が減少している今、農業の省力化も重要な観点となります。

消えない課題

農作物の品種改良が進み、おいしさが増す一方、植物が本来持っている病害虫に対する抵抗性が落ちてしまうことがあります。また、農業への耐性も懸念されます。新農薬は、未来の農業を見据え、人と環境にやさしいものであり続けなければならないと、食生活を支えるための研究員の挑戦は続きます。



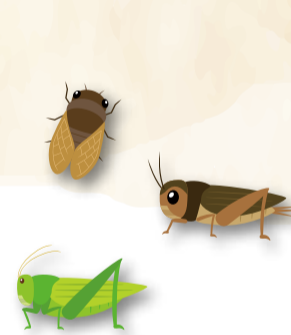
敷地内の試験農場

www.hokkoken.co.jp
北興化学工業株式会社

新たな食の選択肢 昆虫食への挑戦

国連によれば、2050年には、世界の人口が97億人に達すると見込まれています。世界規模での食料難が懸念される中、昆虫食が注目を集めています。見た目やイメージから、昆虫食を敬遠する人も多いかもしれませんが、日本でも古くから蜂の幼虫や蚕の蛹、イナゴなどは貴重なタンパク源として食べられてきました。

また、昆虫食は牛肉や豚肉と比べても遜色がないほどタンパク質が豊富であるとの研究結果もあります。



昆虫食の販売

昆虫食にいち早く目を付けた企業にTAKEO株式会社があります。

東京都内に本社を置く同社代表取締役の齋藤健生(36)さんは、公園で捕まえたセミが食用になることを知ったことで、「昆虫も一般的な食べ物として人を喜ばせることができるかもしれない」という考えを抱き、14年に昆虫食に関する事業を始めました。現在では、取り扱う商品数は約100種類にもなり、昆虫食専門



国産昆虫シリーズ

企業として自社製造や実店舗の経営にも力を入れています。

注力商品である全国各地の食用昆虫をおいしく加工した「国産昆虫シリーズ」では、京野菜を食べた「京都こおろぎ」、アーモンドを食べた「広島こおろぎ」など、今日まで9生産者の昆虫を商品化しています。

昆虫農場「むし畑」

同社では農業としてトノサマバッタを生産するため、市内に昆虫農場(むし畑)を開設しました。むし畑の立ち上げに当たっては、都市農業支援センターに相談。近所の方々の理解も得、19年に利用権設定により農地を借りることができました。

むし畑は、市内在住の三橋亮太(34)さんが管理・運営しており、弘前大学と共同研究のもと養殖技術開発を進めています。三橋さんは、「トノサマバッタは草食性のため、飼料の面で環境



むし畑のトノサマバッタ

takeo.tokyo
昆虫食のTAKEO

にやさしい上、おいしい昆虫である」と言います。バッタは、イネ科の植物だけで養殖が可能で、将来的にはエサとして、雑草の活用も視野に入れていくそうです。常に新鮮なエサが必要であるため、バッタの量産には課題がありますが、今後の技術開発により解決していく計画です。

むし畑の工夫

トノサマバッタが好む植物を季節ごとに育てることや、バッタが逃げ出さないように、ビニールハウスの中でネットに入れて育てるといった工夫をしているそうです。こうして育てられたバッタは、素揚げするとカワエビに似たサクサクとした食感となり、おつまみに向くだけでなく、牧草のような爽やかな香りを生かしたスイーツにも応用することができそうです。一日も早いトノサマバッタの商品化が待たれます。

新規就農者紹介 ブルーベリーを通じて 幸せの輪を広げたい



約80品種のブルーベリーを栽培

「私は20年間のサラリーマン生活を経て農家に転身した脱サラ農業者です」と、明るく話してくれたのは、上萩野の観光農園でブルーベリーを育てている渡辺豊(47)さん。未経験ゆえの不安もあったそうですが、県農業アカデミーで農業の基礎を学び、試行錯誤を重ねていく中で就農を決意しました。

2019年に就農し、開園に向け準備を進め、21年7月に摘み取り観光農園(ブルーベリーヒルズあつぎ)を上萩野にオープンしました。都心からも車で1時間ほどの場所でありながら、自然の中でゆったりとした時間を過ごすことができる農園です。約80品種のブルーベリーが栽培されているため、訪れるたびに違った味わいを楽しむことができます。

渡辺さんが数ある農作物からブルーベリーを選んだ理由は、とある農園で偶然食べた摘みだてのブルーベリーのおいしさ。その味を

多くの人たちに知ってもらいたいという思いからでした。

農園づくり

農園のある場所は長い間耕作されていらない農地でした。観光農園を立ち上げるため、整地作業や、苗木の植付け、灌水(養液)設備や防鳥ネット、防草シートの設置などが必要になります。また、来園者を迎えるためには、受付、休憩所、トイレ等の設備のほか、駐車場も欠かせません。友人等の力を借りて造園を進めていたものの全然人手が足りず、困り果てた渡辺さんは、農作業をイベント化してSNS等で呼びかけをしたところ、農業に関心の高い方や自然に触れてリフレッシュしたい方など、延べ100人以上が手伝いで農園を訪れました。

多くの方の力を借りて開園できたこと、感慨深そうに振り返っていました。

こだわり栽培

渡辺さんがブルーベリーを育てる上で最も気を付けていることは根っこの環境作りです。「保湿」と「水はけ」という相反する状況を作り出すため、スポンジ状のものを敷き詰めた鉢で栽培しています。そこにブルーベリーが大好きな養分



やさしい眼差しでブルーベリーの生育を確認する渡辺さん

blueberryhills.jp
Blueberry Hills 株式会社

就農前から 魅力を発信



10倍おいしくなるノート

を与えることで、原産地アメリカの土壌環境が再現され、本来のおいしさを引き出すことができるそうです。

ブルーベリーを栽培するだけでなく、その魅力を伝えるための活動も精力的に行っている渡辺さん。開園する前から、食べ比べイベントを都内で開催。開園してから「ブルーベリーが10倍おいしくなるノート」を独自に開発して、来園された方にブルーベリーの魅力を熱く伝えています。「将来はブルーベリーをイチゴのようなメジャーな果物にして、品種名やブランド名で購入しなくなるようになれば」と、ブルーベリー愛に溢れたやさしい眼差しで話してくれました。

農地利用最適化に向けた 意見・要望書を市長に提出

去る9月10日、農業生産力の増大、農地の保全のため、農地等利用最適化推進に関する意見、施策・予算要望を市長に提出しました。

◎畜舎への小動物侵入防止施設設置への支援策 拡充
◎その他、合わせて21項目の意見・要望を行いました。



農業塾で技術を学ぶ生徒たち

農業塾開講

将来の厚木の農業を担う方を対象に研修講座を開講します

〈概要〉 講座と圃場(温水)での栽培実習を通し、農業・農作物に関する基礎知識を学びます。全27回(講座7回、実習20回)を予定。
〈募集人員〉 23人以内
〈受付期間〉 令和4年2月1日(火)から4日(金)まで
〈申し込み方法〉 JAあつぎ本所2階指導販売部窓口にて「受講申込書」を提出。申し込み多数の場合は、受講申込書の志望動機等により選考。
〈問い合わせ先〉 JAあつぎ指導販売部 地域農業対策課 ☎221-2273

たくさんの“ともに”が詰まったJAあつぎの情報を発信!



昨年8月2日、JAあつぎアンテナショップ「Tomoni」が開店しました。コンセプトは、組合理念「夢ある未来へ 人とともに、街ととともに、大地とともに...」。

Tomoniでは、各種相談会や講座、各種講習会の開催、地域に根ざした様々な情報発信、厳選した地場(国産)農畜産物、6次化商品の販売[夢末市出張販売所(平日10:30~14:00、夢末市休業日は除く)]を行っています。

厚木市産、清川村産の旬のおいしい野菜をはじめとした農産物、農家手作りのお菓子などももちろん、厚木市産の豚肉、県外JAで扱う特産品等、たくさんの「おいしい」が並んでいます。

場所は、本厚木駅南口すぐの絶好の立地。JAあつぎ駅前支店(泉町3-13)と同一フロアの1階です。

地域農業に関する情報も発信しています。お出かけの帰りなど気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。



親子で楽しむ！ サツマイモ掘り体験

中荻野の畑で「親子で楽しむ！サツマイモ掘り体験」が10月16日に行われ、10組の親子が参加しました。

営農者が大切に育ててきたサツマイモを親子で収穫する楽しさと、農業の大切さを学んでもらう



掘ったサツマイモに満足気な親子

ため、荻野公民館の学級講座事業として実施されました。

公民館に隣接する協力農家の畑が会場。決められた区画を前に期待が膨らみます。

さあ！いよいよサツマイモ掘りです！

サツマイモを傷つけないよう、

見たことありますか？
サツマイモの花



市内の畑でサツマイモの花を見つけました。サツマイモは秋が深まって日が短くなる頃に花をつける「短日性」の植物で、国内では温暖な沖縄や九州南部で開花することはあるものの、本州では珍しいといえます。アサガオを小さくしたような形をしており、外観は白く中心は淡い紫色をしています。

何か良いことの訪れを予感させるきれいなお花でした。

親子で協力して慎重に掘り進めます。サツマイモを見つけると「あった」「見つけた」という子ども達の弾んだ声があちこちから聞こえてきました。土をしつかりとかき分け、出てきたサツマイモを揺らしては、一生懸命ひっぱる子ども達。大きなサツマイモを手にとり、やってみようか相談する参加者親子は笑顔で満ちていました。

最適化推進委員の活動

農地の利用状況を把握するため、農地利用最適化推進委員は、年間を通して、農地パトロールを実施しています。

今年度のパトロールでは、約11ヶ所の農地を遊休農地に、約42ヶ所の農地を、管理のみされている肥培管理農地として判断しました。農地利用の最適化に向けた取組により、近年、遊休農地は減少傾向に、肥培管理農地は増加傾向にあります。

利用意向調査

遊休農地と判断した農地所有者等には、「農地中間管理機構を利用する」、「自分で耕作する」、「貸

出しする」等、今後の利用意向をお伺いする調査を実施しています。昨年末、対象となる方には意向調査票を送付しました。

ご回答いただいたいない場合は、早急にご回答をお願いします。

ご回答がない場合、推進委員が意向確認のため直接訪問いたしますので、その際は、ご協力をお願いします。

農地情報

みえる化プロジェクト

肥培管理農地であっても、今後管理ができなくなると、遊休化してしまうおそれがあります。こうした農地の有効活用のため、

貸し借りのお手伝いをする、みえる化プロジェクトを実施しています。パトロールで把握した肥培管理農地所有者を、推進委員が訪問し、貸出しの意向等をお伺いすることもあります。

貸し出す意向をいただいた農地情報は、市ホームページやJAあつぎ各支所に掲示し、借り受け希望の方とマッチングします。

肥培管理農地をお持ちで、貸し出しをご希望する方、今後の管理に不安のある方は、お気軽に地区の推進委員にご相談ください。



新任農業委員紹介

2021年10月5日付けで内海則行氏及び大矢和人氏が新たに農業委員に選任されました。



うちうみ のりゆき 委員



おおや かずと 委員

- ① 相川地区
- ② 228-16967
- ③ 農地の保全と本市の都市農業の発展に努めてまいります。

- ① 市内全域
- ② 228-1953
- ③ 農業の多面的機能を提唱するとともに、本市の農業振興と農地保全に努めます。

- ① 担当地区
- ② 電話番号
- ③ メッセージ

なお、市川和典氏及び野口政夫氏が5月31日をもって農業委員を退任されました。

在任中はご尽力を賜り、ありがとうございました。

全国農業新聞

国が変わる 安心が大きくなる

担い手積立年金

- 1 農業に従事されている方は誰でも加入できます
- 2 保険料は自分で選べ、いつでも見直しできます
- 3 税制面で大きな優遇措置があります

詳しくは…
農業者年金基金 検索 <https://www.nounen.go.jp>

手続きは、JAあつぎ本所・各支所または 農業委員会事務局へ

編集手記



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

今号の2ページでは、農業メーカーと昆虫食に取り組む法人を紹介しました。

取材を通じ、農業分野でのSDGs(持続可能な開発目標)との関係について考えさせられました。

北興化学工業(株)さんでは、農業事業で「食料の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品を社会に提供」しています。

また、TAKEO(株)さんでは、世界中で注目されている昆虫食の製造・販売だけでなく、材料となる昆虫の飼育にも取り組んでいます。

どちらも、SDGs17の目標のうち、目標2の「飢餓をゼロに(飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する)」に、直接関連しています。

私たち農業者も、米や野菜等の生産を通じ、SDGsに深く関係しています。

食料生産は、農業者だけではできません。農薬等製造販売業、資機材製造販売業、流通業、その他たくさんの業種、たくさんの人の力で成り立っています。

こうしてみると、難しいと感じていたSDGsですが、実は身近なものだと気づきました。SDGs17の目標、169のターゲットを再確認してみようと思います。(M)

